国語

(45分)

1

次の文章は、哲学者の串田孫一（一九一五～二〇〇五）が一九五五年に書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

詩人の尾崎喜八さんが、昔、植物学者の牧野富太郎氏をかこむ植物同好会の人々と採集に行かれた時の文章に次のような箇所があります。それは、先生、これは何と申しますかと、次々に訊ねられる時牧野博士はそれをたちどころに説明されることなのですが、続いて次のような文章があります。「先生が日本の植物に対して百の名称を断ぜられるとしても、僕はただ先生の記憶の強大さ、知識の広さに驚くだけである。しかし一人の可憐な小学生が、何か小指の先ほどの植物を探して来て『先生これ何ですか』と訊いた時、『これは松』といいながら、その子の頭へ片手を載せられた時の、あの温顔の美しさを僕は忘れない」

私はこの一節が非常に好きなのです。そこには、知るということ、そのための人間同志に通う暖かいものが感じられます。ただ人間としてこれだけのものは知って置かなければならない、そういう気持で本を読んだり、学校へ通って勉強をする、それも確かに必要なことなのですが、そこで、もし一方は教える他方はそれを教わるという関係だけならば、ⓐそれは全く機械的なものになって、遂には試験のために勉強をするという現象も生まれて、知ることによって快さや喜びが伴って来るような、極く素朴なⓑスガタがあまり見られなくなってしまいました。自分の知らないことでも、もう誰かは必ず知っている、大概のことは本に書いてあると思ってしまって、特に知ろうとしないのです。さまざまの事典と名のつく本が出ることは、それに誤りがない限り実にありがたいことなのですが、これだけ持っていれば必要な時にその知識をそこから引き出せるという考え、これは案外恐ろしいことではないかと思います。

知ることと、知らされることの違いを考えてみて頂きたいのです。私は、知るということの中には、知りたいという意欲がはっきりしている場合を考えています。これだけのことを知っていないと笑われるとか、現代人としての常識に欠けているといわれそうな、ただそのために知るのであれば、外部からの強制的な力によって知ることを努力しているに過ぎません。そういう人は自分はどうでもよいのです。それでも全くの無関心な状態に比べればいいでしょうけれども、しかしそうして知識を得る時には喜びはなくてむしろ苦しみがあるばかりだと思います。それよりももっと恐ろしいことは、知っている振りをするために、なるべく苦労の少い手段を選んで、知った振りをするのに必要な知識だけを用意して置こうという態度です。私の知っている若い方々の中には、話をしていると実に博識だと思われる人がいます。文学についても、美術や演芸その他の芸術についても、政治についても国際情勢についても実によく知っているように見えるのです。そして知っているだけでなしに、それらに対してⓒヒヒョウもしますし、またそれに対する自分の立場もあるらしく見受けられるので、話をきいていますと、私などは少し恐ろしくなって来ます。けれども少しこちらが意地悪く訊ねかえしてみるとか、もう少しⓓ詳しい説明を求めたりしますと、ところどころあやしいことが出て来ます。つまり、それらの沢山の知識の大部分はいわば借物だったのです。知識だけでなく、それらの人の使う言葉の多くが借物だったのです。それは特に学術的な用語、あるいは哲学用語といえるような単語の場合、目立って感じられます。このⓔ知識の借物ということはなかなか魅力のあることでありまして、はでな衣裳を着て自分を飾ることと少しも変りありません。しかしそれは、至極便利なダイジェスト式の本が出ていますと、比較的時間もお金もかからずに出来ることで、これもまた、悪く利用しますとかなり危険なものだといえます。この借物の知識ででも自分の身を飾る魅力というのは、恐らく人間の心の中に根強く巣を造っている自尊心、虚栄の心によるものと思われます。ブレーズ・パスカルがこの虚栄心についていった有名な言葉をここに引かせて頂くことにします。

「虚栄は人間の心に深く喰い込んでいるもので、兵士も従卒も料理人も、それぞれ自慢して自分のⓕ崇拝者を得ようとする。哲学者さえ同じことを望む。栄誉を否定する論者も、よく論じたという栄誉は得たいと願う。またそれを読む人も、それを読んだという栄誉を得ようとする。そしてこれを書いている私も、恐らく同じ欲望を持っているだろう。また恐らくこれを読む人も……」

虚栄のための知識、あるいは自分の身を飾るための知識は、いざとなったら何の役にも立たないということをここで思い切って申しあげまして、本当に知りたいと思うことをⓖ改めて考えて頂きたいのであります。大きなことでも小さなことでも、ⓖ具体的な現実の問題でも、ⓗ抽象的なことでもそれは構いません。もしそういうことがあって真剣にそれを知ろうとして獲得することの出来たものなら、それはたとえ本から得たものでありましょうとも、あるいは幼い子供から教えられたものでありましょうとも、必ず自分のものになって、それが素朴な要求であればこそ喜びを伴い、またそれが今すぐに役に立たないものであるにしても、いつかは必ず、形をかえて自分の成長に役立ったというはっきりした証拠を見せてくれるにちがいありません。

（出典　串田孫一「考えることについて」）

（注）断ずる――判断を下す。　温顔――優しく穏やかな顔つき。
ダイジェスト――著作物などの内容を要約すること。
ブレーズ・パスカル――フランスの哲学者・数学者・物理学者。
従卒――兵士につき従って身の回りの世話をする者。

① ――の部分ⓑ、ⓒを漢字に直して楷書で書きなさい。また、――の部分ⓓ、ⓕの漢字の読みを書きなさい。

② ⓐ「それは……になって」とあるが、この部分について説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、［X］は十字、［Y］は三字で、それぞれ文章中から抜き出して書きなさい。
知ることが、［X］によって知識を身に付ける行為になり、人間同志に［Y］ものが通うこともなく、素朴な様子も見られなくなること。

③ ⓔ「知識の……ありまして」とあるが、筆者がこのように述べる理由について説明した次の文の［　］に入れるのに適当なことばを、四十字以内で書きなさい。
知識を借りてくることによって、［　］ことができるから。

④ ⓖ「具体」と ⓗ「抽象」の意味における関係と同じ関係にある語の組み合わせは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。
ア　創造 ― 模倣　イ　一般 ― 普遍　ウ　促進 ― 抑制
エ　計算 ― 勘定　オ　熱中 ― 没頭

⑤ 「知ること」とあるが、これについて説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。文章全体を踏まえて、一つ答えなさい。
ア　「知ること」とは、本や事典を活用して必要な知識とそうでない知識を主体的に取捨選択することであり、選び取った本物の知識は、自我の形成につながるものである。
イ　「知ること」とは、知りたいという意欲をもって真剣に知ろうとすることであり、そこで獲得の喜びを伴って得た真の知識は、自身の成長の助けとなるものである。
ウ　「知ること」とは、教える側と教わる側の交流で知識が伝わることであり、自ら望んで得た知識は、内容にかかわらず、人生に大きな栄誉をもたらすものである。
エ　「知ること」とは、自身の意思とは関係なく、世間の常識や社会的要請を意識して勉強することであり、習得した豊富な知識は、人格を磨くために役立つものである。

⑥ この文章の表現の特色とそのねらいを説明したものとして**適当でないのは**、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　筆者にとって印象的な文章を提示することで、後に続く主張への理解を深めるきっかけにしようとしている。
イ　筆者が経験した出来事を例示することで、「知ること」に関する問題意識をわかりやすく伝えようとしている。
ウ　学者が残した有名な言葉を引用することで、「知ること」についての自らの見解を補強しようとしている。
エ　対比構造で論点の違いを鮮明にすることで、それぞれの考えの優れた点について言及しようとしている。

Ⅰ国　(3)

2

次の文章は、中学一年生の「正太郎」が、「母」と昼食をとっている場面である。水泳選手だった「父」に導かれて習い始めた水泳を一年でやめ、その後水泳を避けてきた「正太郎」は、この日、「母」に道案内を頼まれ、妹である「真琴」の水泳合同練習会に仕方なく同行していた。これを読んで、①～⑤に答えなさい。

「最近、いつお父さんと話した？」
と母が言った。
「……おはようくらいなら、毎日言ってるけど」
「正太郎、お父さんのこと、嫌い？」
言葉に詰まる。
そして母は、
「正太郎が、真琴のこと、素直に応援できない気持ち、お母さんにはわかる」
と言った。
ⓐ母は今日、僕を道案内のために連れてきたわけではないのだ。
「……母さん、メダルのこと、気づいてる？」
それは、声に出して言った言葉なのか、心の中だけで言った言葉なのか、自分でもわからなかった。
母は眉尻を少し下げて、困ったような顔をした。たぶん、僕は、声に出して言ったんだ。
僕はもう一度、言い直した。
「僕が真琴の部屋からメダル盗んだこと、気づいてる？」
母はその質問には答えず、
「お母さんは、正太郎が、好きなことやってくれてたら、それでいいと思う」
と言った。
僕はなんと言ったらいいかわからなくて、何口目かのオムライスを口に運んだ。卵はふわふわではなく薄いやつで、ケチャップの味が強くする。
母さんは、僕がメダルを真琴の部屋から持ち出したことを知っているのだ。母さんだけじゃない、真琴だって、Aきっと知っているのだ。あのメダルは、真琴の努力の証だ。努力して取った大事なメダルがなくなって、気づかないはずがないだろう。
「なに泣いてるのよ」
「……ごめんなさい」
真っ赤なケチャップに、涙が垂れる。
ごめんなさい。ごめんなさい。
僕は、同じ言葉を繰り返しながら、オムライスを食べた。
「泣きながら食べたら、作ってくれた人に失礼じゃない」
と母は言った。
僕は、オムライスを、時間をかけて食べ切った。
おばあさんがやってきて、温かい紅茶をテーブルに置き、おいしかった？　と言った。おいしかったです、と僕は答えた。
店を出て、さらに一時間ほど街をドライブした。
午後、僕は母と並んで真琴の合同練習をプールサイドの端っこのほうで見学した。市民プールは、塩素のにおいがした。僕がこの世で、一番嫌いなにおい。
休憩時間になり、水泳帽を被った真琴は母と僕を発見して、ちゃんと見てた？　また記録更新したんだよ！　と言った。
「ごめん、二人でお昼食べてたら見逃しちゃった」
怒るかと思ったが、真琴は、バカー！　と言っただけだった。いや、これでちゃんと怒っているのか。
「またすぐに更新するでしょ。そのときはちゃんと見るから」
母の言葉に、真琴はうれしそうな顔をした。
笛が鳴って、真琴はコーチのもとへ走っていった。
「じゃ、最後にクロールね」
真琴はゴーグルをばちんと目にはめて、コーチの笛の合図で壁を蹴り、泳ぎ出した。
B初めて見る真琴の泳ぎは見事だった。しなやかで、力強くて、子供のころに見た父の泳ぎをミニサイズにしたみたい。僕にはできなかった、父みたいな泳ぎ。そう思うと、やはり胸がキリリと痛んだ。ⓑでも僕は、ちゃんと最後まで真琴の泳ぎを見た。
真琴は、ひとかきごとに確実に速くなっていくのだろう。
僕だって、あのとき水泳をやめていなければ、真琴みたいに、父みたいに速くなれたのだろうか。
僕はいつか、真琴の泳ぎを、胸の痛みなしで、心の底から「がんばれ」と思いながら、見られるようになるだろうか。
そう思いながら、僕は真琴のクロールを見ていた。
帰りの車内は静かだった。
母がバックミラーにちらりと目をやって言った。
「見てよ、あの寝顔」
真琴は、体を斜めにして口を開け、上を向いて爆睡していた。水泳は、ものすごく体力を使うのだ。
「お父さんね、このまえ言ってたよ」
母がまた唐突に言った。
「……何を」
「正太郎に、どういうふうに接していいかわからないって」
「……」
「自分が無理矢理水泳をやらせて、つらい思いをさせたんじゃないかって。だから、正太郎がやることに関して、口を出すのはやめようって、正太郎が水泳やめたときに決めたんだって。でも、そんなの、口に出してくれないとわからないよね。お父さん、そういうの、へたくそなんだよ。Cだからいま、お母さんが代わりに言っちゃった。お父さんのこと、許してあげて。お父さんだって、お母さんと同じこと、正太郎に対して思ってるんだよ」
今日の母は、Dまるで友達みたいな口調で話す。
ⓒ僕は、本当は、わかっていたのだ。
でも、途中であきらめた自分が情けなくて、僕のほうが、父と距離を置くようになったのだ。
いまからでも、僕たち親子は、笑って話したり、思っていることを伝え合ったりできるだろうか。流れていく窓の外の景色に目をやりながら、僕はそんなことを考えた。
「できるよ、家族なんだから」
母は、僕の心が読めるみたいだ。

（出典　小嶋陽太郎「ぼくのとなりにきみ」）

① ═══の部分A～Dの語のうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。

② ⓐ「母は今日……ではないのだ」とあるが、このとき「正太郎」が理解した、「母」が「正太郎」を連れてきた意図として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　真琴の応援を口実に外へ連れ出し、落ち込んでいる自分を元気づけようとしている。
イ　真琴のメダルの話をきっかけに、真琴の泳ぎに対する自分の感想を聞こうとしている。
ウ　父や真琴のことを話題にして、自分とじっくり話し合う機会を持とうとしている。
エ　父に反抗的な態度をとり続け素直に謝ろうとしない自分の、味方になろうとしている。

③ ⓑ「でも僕は……泳ぎを見た」とあるが、このときの「正太郎」の心情を説明した次の文の［　］に入れるのに適当なことばを、四十字以内で書きなさい。
真琴に対する罪悪感や見事な泳ぎへの嫉妬とともに、［　］を感じて胸を痛めながらも、逃げずに自分と向き合おうとしている。

④ ⓒ「僕は、本当は、わかっていたのだ」とあるが、ここでの「正太郎」について説明した次の文の［X］、［Y］に入れるのに適当なことばを、［X］は二十字以内で書きなさい。また、［Y］は文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。
正太郎は、父が［X］ことを母の言葉によって確認し、自分が［Y］ことを認めている。

⑤ この文章の表現の特徴について説明したものとして**適当でない**のは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア　泣きながら自らの過ちを認めたり、プールで見学したりするなど、正太郎が変化していく様子が段階的に描かれている。
イ　帰りの車内の場面からは正太郎の回想となっていて、正太郎や家族のわだかまりがとけていく様子が重層的に描かれている。
ウ　母の最後の言葉に倒置法が用いられていることにより、家族のきずなを信じる母の前向きな様子が印象的に描かれている。
エ　正太郎の視点で語られているため母の思いは直接説明されないが、その言動から息子への優しさが伝わるように描かれている。

3

次の文章は、西行（平安時代末期の歌僧）の和歌とその解説文である。これを読んで、①～④に答えなさい。

西行は桜の花の美しさの抵抗しがたい力をくり返し歌にした。次の歌もその一つである。

あくがるゝ心はさてもやまざくら　散りなんのちや身に[a]帰るべき
（山家集）

桜が咲いているあいだは、心が身からあこがれでてしまって、なんともとどめることができない、しかし散ってしまえば、わが身へと帰ってくるだろうか、という意味である。「あこがれる」というのは、もともとこの「[b]あくがる」という言葉からきたもので、「所、事」を意味する「アク」という言葉と、「[ⓒ]」という意味の「カル」という言葉が結びついてできたものである（『岩波古語辞典』）。したがって、もともとは、「本来あるはずの場所から離れる」という意味の言葉であった。さまよい歩くという意味でもあるが、魂が身から離れてしまうことでもある。したがって「浮かびあがる」ことだと言ってもよい。西行は桜に強大な浮力を感じたのである。

短歌に限らず、広く詩一般を考え、「詩人とは何か」と問うたとき、それに答えることはもちろん容易ではないであろうが、一つの答えとして、普通の人よりも大きなイマジネイションの力をもち、強い憧憬を抱いてその世界により深く浸ることのできる人、そして現実を離れ、高く「浮かびあがる」ことのできる人である、というものが考えられる。西行の場合には、その浮力がきわめて強かったこと、一度浮かびあがった心がわが身のもとに帰るだろうか、と問うほどに強いものであったことを指摘することができる。そのあらがいがたい力が、同時にそれを表現したいという衝迫を西行のなかに生んだのではないだろうか。信仰の道を歩みながら、内から突きあげてくるものを言葉にせざるをえなかったのであろう。そういう意味で西行は天性の詩人であったと言えるのではないだろうか。

（出典　藤田正勝「日本文化をよむ　5つのキーワード」）

（注）イマジネイション――想像。　憧憬――あこがれること。
衝迫――人の心や感覚をつきうごかすこと。

① [a]「帰る」の主語に当たる語を、和歌の中から一語で抜き出して書きなさい。

② [b]「あくがる」とあるが、これについて筆者が辞書の記載を用いて説明した意図として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　散り際の桜のはかなさを、歴史的事実を踏まえて解説するため。
イ　和歌に用いられた表現の誤りを、資料によって論証するため。
ウ　桜を慈しむ西行の様子を、芸術的な視点で提示するため。
エ　和歌に表れた西行の心理を、根拠に基づいて説明するため。

③ [ⓒ]に入れるのに適当なことばを、解説文から三字で抜き出して書きなさい。

④ 次は、この文章を読んだ中学生が書いた、西行の和歌についての感想文である。[X]、[Y]に入れるのに適当なことばを、[X]は二字、[Y]は五字で、それぞれ解説文から抜き出して書きなさい。

和歌からは、西行が桜の美に強い憧憬を抱いていたことが伝わってきた。筆者は、[X]の強さとそれに伴う表現したい気持ちの強さに動かされて言葉にした西行を、[Y]であったとしている。西行の切実な言葉だからこそ私の心に響いたのだと思う。

4

中学生の西さんのクラスでは、学校の近くにある商店街の活性化計画に取り組んだ。次は、駅前で実施したアンケート調査に基づき、西さんの班と山下さんの班がそれぞれ立案した企画を発表している場面である。発表内容を読んで、①～③に答えなさい。

【西さんの班の発表】

私たちは、商店街のパンフレット作成を企画しました。この企画は、二つの効果が期待できます。一つは、商店街に親しみを感じてもらえることです。各店舗のセールスポイントをたくさん紹介し、お店の様子がわからず立ち寄りにくいというお客さんの不安感を拭いたいと思います。もう一つは、大勢の人に商店街の魅力を発信できることです。パンフレットは、配布や商店街のホームページへの掲載も可能なので、多くの人に商店街のことを知ってもらうのに有効だと考えました。

【西さん】

【山下さんの班の発表】

私たちは、商店街でのスタンプラリーを企画しました。アンケート調査で多く出た意見は、「交通の便が悪く行きづらい」、「[X]ため利用しづらい」というものでした。これを受け、中学生である自分たちでも協力できることとして思いついたのがこの企画です。これは、商店街の各店舗にスタンプを設置し、スタンプを集めた人には手作りのプレゼントを渡すというものです。各店舗をめぐるスタンプラリーによって、それぞれのお店のことを知ってもらいたいと思います。

【山下さん】

① 【山下さんの班の発表】が論理的なものとなるために、[X]に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　駅から商店街までが遠い　　イ　休憩できる場所がない
ウ　どんな店があるかわからない　　エ　お客さんで混雑している

② 二つの班の発表を比較して、【山下さんの班の発表】にはない【西さんの班の発表】の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア　企画の趣旨をキーワードを繰り返しながら説明している。
イ　企画がもたらす効果を項目立てて説明している。
ウ　企画意図を聞き手に合わせて平易な言葉で説明している。
エ　企画の段取りを具体例を用いながら説明している。

③ 西さんの班の企画を採用し、分担してパンフレットを作成することにした。資料Ⅰ～資料Ⅲはそれぞれ次のとおりである。

資料Ⅰ【駅前でのアンケート調査の結果の一部】
資料Ⅱ【お店の人からの聞き取りメモの一部】
資料Ⅲ【作成中のパンフレットの一部】

資料Ⅲがお客さんのニーズ（要求）を捉えたものとなるよう、資料Ⅰと資料Ⅱを踏まえて、[Y]に入れるのに適当な内容を、**条件**に従って六十字以上八十字以内で書きなさい。

条件
1　二文で書き、一文目は解答欄の書き出しに続く形にすること。
2　資料Ⅱの情報を用いて、それが資料Ⅰのどの項目と対応しているかがわかるように表現すること。
3　資料Ⅲにすでに掲載されている情報は用いないこと。

資料Ⅰ

◎アンケート調査の結果
「商店街に求めるもの」
○品質（安全性、味など）
○お得感がある
○明るく清潔感がある
○飽きさせない工夫がある
○交通の便がよい
○夜遅くまで営業している

資料Ⅱ

聞き取りメモ「たからベーカリー」担当【2班】
○営業時間…7:00～18:00
○休み…日曜・祝日
○店長が商品開発に熱心
　試食によりお客の声を取り入れる
　季節にあわせた新商品
○名物「もちもちパン」…1個150円
　もちのような食感　やさしい味
　長年みんなに愛される
○飲食スペースあり
○専用駐車場なし
○ポイントカード
　200円購入ごとに1ポイント付与
　→20ポイントで100円値引き

資料Ⅲ

たからベーカリー
営業時間
7:00～18:00
定休日
日曜・祝日

■名物「もちもちパン」
長年、町のみなさんの胃袋をささえてきたこのパンは、おもちのような食感と、幅広い年代の方に好まれるやさしい味わいが魅力です。

■セールスポイント（特長）
このお店のセールスポイントは、
[Y]

Ⅰ国 (1)

検号 受番
(算用数字)
志願校

注意　字数が指定されている設問では、「、」や「。」も一ます使いなさい。

解答用紙

※

1

⑥	⑤	④	③	② Y	② X	① ⓕ	① ⓓ	① ⓒ	① ⓑ
							しい		

2

⑤	④ Y	④ X	③	②	①

3

④ Y	④ X	③	②	①

4

③	②	①
このお店のセールスポイントは、		